

みずほCustomer Desk Report 2020/07/01 号(As of 2020/06/30)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	107.74
TKY 9:00AM	107.59	1.1245	120.95	GBP/USD	AUD/USD
SYD-NY High	107.99	1.1262	121.41	1.2304	0.6873
SYD-NY Low	107.53	1.1191	120.60	1.2402	0.6912
NY 5:00 PM	107.93	1.1232	121.25	1.2258	0.6833
				1.2402	0.6904
NY DOW	25,812.88	217.08	日本2年債	-0.150	▲1.00bp
NASDAQ	10,058.77	184.61	日本10年債	0.020	1.00bp
S&P	3,100.29	47.05	米国2年債	0.153	0.20bp
日経平均	22,288.14	293.10	米国5年債	0.287	1.26bp
TOPIX	1,558.77	9.55	米国10年債	0.657	3.11bp
シカゴ日経先物	22,340.00	▲45.00	独10年債	-0.4555	1.65bp
ロンドンFT	6,169.74	▲56.03	英10年債	0.1700	0.90bp
DAX	12,310.93	78.81	豪10年債	0.8880	0.70bp
ハンセン指数	24,427.19	125.91	USDJPY 1M Vol	5.80	▲0.25%
上海総合	2,984.67	23.16	USDJPY 3M Vol	6.33	▲0.15%
NY金	1,800.50	19.30	USDJPY 6M Vol	7.38	▲0.10%
WTI	39.27	▲0.43	USDJPY 1M 25RR	-0.55	Yen Call Over
CRB指数	137.97	0.93	EURJPY 3M Vol	8.03	▲0.10%
ドルインデックス	97.39	▲0.14	EURJPY 6M Vol	8.51	▲0.17%

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
6月30日	08:30	日 失業率	5月 2.9%	2.8%
	10:00	中 製造業PMI	6月 50.9	50.5
	10:00	中 非製造業PMI	6月 54.4	53.6
	15:00	英 GDP(前期比/前年比)	1Q F -2.2%/-1.7%	-2%/-1.6%
	15:00	英 個人消費(前期比)	1Q F -2.9%	-1.7%
	18:00	欧 CPI(前月比)・速報	6月 0.3%	0.2%
	18:00	欧 コアCPI・速報	6月 0.8%	0.8%
	23:00	米 コンファレンスボード消費者信頼感	6月 98.1	91.5

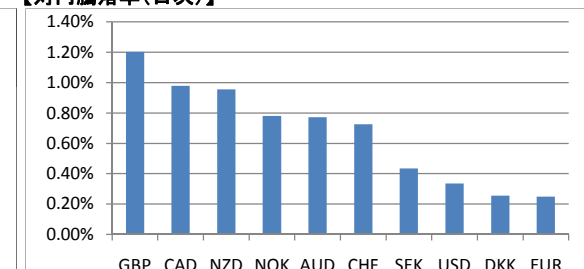
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
7月1日	21:15	米 ADP雇用統計	6月 2900k	-2760k
	22:45	米 マークイット製造業PMI・確報	6月 49.6	49.6
	23:00	米 ISM製造業景況指数	6月 49.7	43.1

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 VIX指数先物の示すもの

7月の市場は「経済活動再開が本格化することへの期待感」「米中対立が高まるリスク」2点をテーマの中心に、「新型コロナウイルス感染の第2波懸念」「経済活動への影響」「その支援体制への見立て」が日々の市場を動かして行くだろう。これらを通じて、市場ボラティリティは上昇するの、低下するの、との読みが今月以降の鍵と思われる。私は、ボラティリティが低下してリスク資産は上昇し、これらに伴いドル/円は上伸すると考えている。

これまでの対コロナへの世界各国の施策は、(1)新型コロナウイルス拡散防止に対する医療研究・ビジネスに係る投資、(2)消費・経済活動の停止・崩壊によってダメージを受けた個人・企業を支えるための財政・金融支援、(3)金融危機回避を目的とする中銀の流動性供給、の大きく3点に集約することができる。そして、その方向性は正しいというのが市場の評価だろう。

このような中、米中対立懸念やウイルス感染拡大懸念等が市場の話題となり本欄でも様々な議論されてきたが、VIX指数先物価格を見てみるとマーケットはボラティリティが落ち着くとみているようだ。VIX指数自体は30台で推移するが、同先物各限月の値を見てみると、直近限月から米大統領選前10月まで現状水準で横ばいで、選挙後は大幅に低下という構造を6月中旬から示している。これは、絶対水準として高めのボラティリティを想定しながらも、財政や金融政策に失敗等の懸念が浮上しない限り、現状水準を上限にボラティリティが今後低下することを指し示す。7月のボラティリティは下がりやすく、8月は上昇する傾向にあるが、8月上昇の可能性は低いかもしれない。このようなシナリオでは、ボラティリティに連動して資産配分を行うファンド中心にリスク資産に向かう可能性が高く、ドル/円は底堅く推移するのではないだろうか。(筒井)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	牛島	山岸	田坂	尾身	上野
ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア
山口	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	小林
ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア	ベア	ベア	ベア	ベア

ブル	ベア
6	14

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。